

公共図書館における医学書の蔵書構成分析

児玉 閲

東邦大学医学メディアセンター

1.はじめに

東邦大学医学メディアセンター（MMC）では、患者図書室サービスを行っていることもあり、公共図書館から質の高い医学書の選書についてなどの相談をたびたび受けてきた。しかしこれまで現状の公共図書館に備えられている医学書の実態を知ることはなかった。今回、某公共図書館（A館）から、所蔵する医学書情報を利用させてもらえる機会を得たので、大学の医学図書館、病院の患者図書館との比較から、公共図書館における医学書蔵書構成を分析した。

2.方法

A館で医学に分類される図書26,672冊について、MMC、東邦大学医療センター大森病院からだのとしょしつ（からだ）が所蔵する医学書（それぞれ57,496冊、1,153冊）、出版年、分類、出版社の分布を比較した（冊数は、2018年10月1日現在の書誌数）。MMCは大学の医学図書館、からだはMMCが事実上運営している患者図書室である。からだは患者以外にも利用でき、医療・健康情報サービスにおいて公共図書館と類似の施設といえる。

3.結果と考察

出版年については、A館とMMCは過去から現在にかけての分布が似ており、A館でも医学書の受入が進んでいることが窺えた。からだの蔵書は、最近の資料に集中していた。分類については、いずれも偏りがみられた。A館では「精神医学」「食品衛生・食事・栄養」「ダイエット・健康」関連の医学書が突出していた。利用者ニーズ、利用者からのリクエストが考慮された結果と考えられる。からだでは「消化器系」「小児科学」「精神医学」が目立って多かった。MMCでは「婦人科学・産科学」「眼科学」「耳鼻咽喉科学」「歯科学」などの医学書が、他分類に比べ少なかった。出版社については、MMCの多くが医学専門出版社であるのに対し、A館は非医学専門出版社が大勢を占めた。からだは医学専門出版社が多いが、講談社と主婦の友社が上位に入り、これはA館と似た傾向だった。両社とも一般市民向けの医学書を多く扱っていることからこのような結果になったと思われる。

4.結論

A館の医学書蔵書構成について、出版年、分類、出版社の分布を中心に、MMC、からだとの比較しながら分析した。A館では新しい医学書は増えており、医学書を充実させる意欲がみられた。分類の偏り、非医学専門出版社の医学書が多い点は、公共図書館ならではの傾向といえるが、一部、からだとの共通点もみられた。今回の分析から、分類と出版社を若干見直せば、これまでの利用者ニーズに応えつつ、質の高い医学書を備えることができると思われた。